

先端研究拠点事業—国際戦略型—
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」
共同研究プログラム 派遣報告書

2014 年 11 月 4 日

氏名(ふりがな)	宮下精二 (みやしたせいじ)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻統計力学
職名	教授
メールアドレス	miyashita@phys.s.u-tokyo.ac.jp
電話番号、FAX	03-5841-4192

派遣先

受け入れ研究者氏名	Prof. Alex Schenzle(LMU) ¹ , Dr. Eric Vincent(Saclay) ² ,
所属機関 (国)	¹ ドイツ, ² フランス
身分	¹ Dean of Faculty of Physics, ² Directeur de recherches CEA
メールアドレス	Schenzle@lmu.de ¹ eric.vincent@triangledelaphysique.fr ²
研究室 URL	¹ http://www.physik.uni-muenchen.de/personen/professoren/schenzle/index ² http://iramis.cea.fr/spec/Phocea/Pisp/index.php?nom=eric.vincenttml
電話番号、FAX	¹ +49(0) 89 2180-3340(secretary) +49(0) 89 2180-4556(office) ² Tel : + 33 1 69 33 21 77 (direct 21 63)

共同研究

研究課題名	和文	¹ スピントロスオーバー系の相転移、 ² 浮遊磁気粒子のゆっくりした緩和
	英文	¹ Phase transitios of spin-crossover ² Slow relaxation of floating magnetic moments
派遣期間	¹ 2014 10/18-22, ² 10/30-11/2	

実際に行った研究活動、成果などを1-2ページ程度で記述してください。

10/18-22 にドイツ、ミュンヘンの LMU 大学を訪問し、統計力学、物性理論、非平衡物理、生物物理などに関するワークショップに参加した。この会議は前物理学部長 Prof. Alex Schenzle と宮下によって企画され、東大から、佐野雅己専攻長はじめ 9 名、LUM からは Prof. Dieter Braun、はじめ 9 名の講師による講演や研究室訪問などの研究連絡活動が行われた。講演会では、スピントロスオーバー系の相転移とそのダイナミクスに関して、その系で特徴的な弾性相互作用の静的、動的に渡る効果について、口頭発表を行い、また、生物物理はじめ先方で行われている多様な研究に関する情報の収集も行った。さらに、U. Schollwoeck 博士、や I. Bloch 博士の研究室訪問などを行い研究交流、情報収集を行った。

²10/30-11/2 にはフランス、サクレ研究所を訪問し、Eric Vincent 博士、同研究室の S. Nakama 女史と、浮遊磁気粒子のゆっくりした緩和について研究交流を行い、さらに同研究所の Quantronics グループの P. Bertete, Y. Kubo 博士らとでの超伝導共鳴回路における、量子応答、緩和現象などについて有意義な討論、情報収集を行った。